

VOLUME 75(*Suppl.*) · SEPTEMBER 2010

第75回 日本民族衛生学会総会講演集

The 75th Annual Meeting of the Japanese
Society of Health and Human Ecology
Abstract Book

民族衛生

Jpn. J. Health Hum. Ecol.

O-208

タイ王国北部の HIV/AIDS と共に生きる人々と宗教

○石塚さゆり*, **, 佐山理絵***, 高木廣文***

* 財団法人エイズ予防財団リサーチ・レジデント

** 新潟大学医歯学総合病院感染管理部

*** 東邦大学医学部看護学科

【はじめに】

Joint UN Programme on HIV/AIDS (UNAIDS) と World Health Organization (WHO) (2009) ¹⁾ は、2008 年末で、世界で HIV/AIDS と共に生きる人々 (People living with HIV/AIDS; 以下 PHA) の推計は 3,340 万人にのぼり、1 年間で 200 万人が命を落とし、2008 年で新たに 270 万人が感染したと報告している。

タイ王国 (以下タイ) においては、毎年の新規感染者数は 1991 年の 143,000 人をピークに、2003 年には 19,000 人にまで減少した (UNDP, 2004) ²⁾。2001 年から政府による無償抗ウイルス薬治療が開始され、タイにおいても HIV/AIDS は不治の病いから、慢性的な疾患へと変化してきている。

【目的】

タイ北部の PHA の、宗教に関連した行動と思想を、一般住民と比較し、違いを明らかにすること。

【対象と方法】

男女の PHA (PHA 群) 200 名と、同一地域に居住する一般住民 (村群) 213 名を対象に、基本属性、宗教行動に関する無記名質問紙調査を行った。調査票は全てタイ語を用いた。

調査地は、タイ北部 A 県とした。A 県は、タイ国内において PHA が多く、PHA 支援を目的に、PHA グループ活動が行われている。タイ保健省 (2007) ³⁾ は、タイで最初に AIDS 例が確認された 1984 年から 2006 年の間で、人口 10 万人に対する、最も流行率の高い地域は北部地域であり、北部地域における、AIDS 例は A 県が最多と報告している。

調査票配布者の選択方法は、PHA 群はタイ北部 A 県 B 病院の外来通院者とした。村群は、B 病院のある、A 県 C 郡の亜郡より、ランダムに 2 つの亜郡を選択し、さらに選択した亜郡からそれぞれ各 1 つの村を選択し、選択した地域に居住する者とした。

対象者は、現地 PHA の性別・年齢分布に従い、男女比は 1 対 1、各調査群 20 から 49 歳の者とした。

調査票の配布は、PHA 群は B 病院外来診察の待ち時間を利用し、村群は対象地域へ戸別訪問形式で行った。

宗教行動に関する項目は、寺院訪問に関して、タンブン (功德を積むこと)

の経験、輪廻転生思想についてである。回収した調査票は、Microsoft Office Excel 2007 を用いて入力し、各項目の単純集計と村群、PHA 群別のクロス集計を、統計学パッケージ HALBAU ver7.2 を用いて分析した。各項目の記述統計、宗教行動は性別で層化し、2 群 (PHA 群・村群) の差について Mantel-Haenszel 検定を行った。なお有意水準は全て 5%とした。

【結果と考察】

調査票配布総数は 413 部、回収 393 部、回収率 95.1%であった。有効回答数は、村群男 79 名、女 87 名、PHA 群男 59 名、女 91 名の、計 316 名 (有効回答率 76.5%) であった。

平均年齢は、村群 32.8 歳 (SD9.0 歳)、PHA 群 38.2 歳 (5.5 歳) であった。両群の 80%以上が A 県出身であった。

両群とも 98%以上が仏教徒であり、90%以上が「仏教は心の拠り所である」と回答した。

村群と PHA 群で、寺院訪問行動、タンブンの経験に有意差は認められず、タイの人々と仏教思想・行動の一貫した関係が示された。女性は男性より宗教行動が活発であり、女性は出家によって徳を得ることができないため、その他の宗教行動で補おうとしていると考えられた。

「この世でのタンブンにより、来世での未来が決定する」と考えている人は、両群で有意差は認められなかった。「現世での運・不運はその人の前世で行った行為の結果である」、「病気になるのはブン (徳) がいないからだ」では、両群で有意差が認められた ($p=0.031$, $p=0.003$)。このように考えることは、PHA にとって、自分自身の HIV 感染は、ブンがなく、前世での行いが悪かったからであり、それを認めたくない感情があることが示唆された。しかし、「この世でのタンブンにより、来世での未来が決定する」という思想から、現世の将来や来世のためにタンブンを 행っており、相反する感情が入り混じっているものと考えられた。

【まとめ】

PHA と一般住民に、基本的な宗教行動に大きな違いはなく、タイ仏教がタイの人々の生活に根付いたものであることが、示唆された。しかし、輪廻転生思想に違いがあり、タイ人としての本来の仏教的思想はあるものの、自身の HIV 感染とブンの関係性は認めたくない、と考えられた。

【謝辞】

本研究の費用は、平成 20 年度東邦大学医学部看護学科研究奨励金より支出した。

【参考文献】

- 1) UNAIDS, WHO: 2009 AIDS Epidemic Update; UNAIDS/WHO, (2009)
- 2) UNDP: Thailand's Response to HIV/AIDS: Progress and Challenges; UNDP, (2004)
- 3) Ministry of Public Health: Thailand Health Profile 2004-2007; Thailand, (2007)